

平成25年度 第2号



国分寺楼門 (市重要有形文化財)

国分寺門前にあり、前沢村(現東久留米市内)の米津出羽守田盛の菩提寺として創建された寺の楼門を明治28年に移築したものです。三間一戸の楼門で、2階には、十六羅漢像(現在13体)を安置しています。

★国分寺楼門

国分寺西元町1-13

★問い合わせ 042-325-0111 (国分寺市観光協会)

目次

- 巻頭言.....(1)
- 初春研修.....(2)
- 地活推進協議会講演会.....(2)
- 東京更生保護事業関係者顕彰式典.....(3)
- 第7ブロック組織運営連絡会.....(3)
- 管外研修.....(4)
- 社会参加活動.....(5)
- 地活・BBS合同研修.....(5)
- 分区分区トピックス.....(6)
- 第II期・第三期地域別定期研修.....(7)
- 更生保護女性会.....(7)
- 桐友会だより.....(7)
- 多摩連研修会.....(8)
- 新任保護司・退任保護司.....(8)
- 編集後記.....(8)

北多摩東地区保護司会の皆様におかれましては、日頃より犯罪や非行のない明るい社会をつくるため、また地域の安全・安心のため、尽力されておりますことに心から敬意を表します。

東日本大震災から3年が経とうとしています。本市からも岩手県内の市や町に職員の長期派遣を続け、復興支援を行っています。昨年10月の台風により被災した大島町にも支援職員を派遣しました。自然災害の多いわが国においては、自治体相互の協力が重要であり、引き続きこうした連携・支援に取り組んでいきます。

昨年は、吉祥寺において深夜に未成年者による強盗殺人事件が発生しました。関係機関・市民団体・商店街と協議して、繁華街に防犯カメラを増設するとともに、警察と連携した従来のパトロールに加えて深夜帯のパトロールも実施しています。今後も皆様にご協力いただきながら、

「24時間安心・安全なまちづくり」を進めていきます。



24時間安心・安全なまちづくり
武蔵野市長 邑上 守正

武蔵野市の人口構成は、世帯数

が増加傾向にあり、半数の世帯が単身世帯となっています。若い世代の単身世帯だけでなく、独居高齢者の増加も顕著であり、福祉や防災面でも支え合う地域のネットワークが求められます。また、住宅戸数のうち、マンションなど共同住宅が7割を超えています。多様な市民が多様な住まい方をしており、一人ひとりが安心して暮らせるよう、よりきめ細やかに対応していくことが必要です。

保護司の活動は、刑法改正による対象者の増加も見込まれており、ますます重要になっています。市としては、保護司間の連携も含めたバックアップ体制の強化を図るなど、できる限りの協力をしていきます。

結びに、北多摩東地区保護司会の益々の発展と保護司の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

平成二十六年
北多摩東地区保護司会

初春研修・ 新年会

恒例の初春研修・新年会が1月17日に吉祥寺東急インにて開催されました。

今年の研修テーマは「更生保護施設の現状と課題」として東京保護観察所立川支部統括保護観察官であります溝渕潔氏に講演してい



ただきました。地域住民との問題や累犯者の再犯率が高く、また高齢化していく傾向がある点等を詳しく説明していただきました。

また、第2部の新年会ではご来賓として、四州市長・市議会議長および北多摩東地区更生保護女性会会長をお迎えし、多数の当地区会員を加え合計88名の出席がありました。新年会の中で平成25年度の関東地方保護司連盟会長表彰以上の方々には北多摩東地区保護司会から記念品を贈呈致しました。

叙勲・瑞宝双光章の鈴木静子氏（小金井）、法務大臣表彰の本木治子氏（小金井）、全国保護司連盟理事長表彰の渡邊昌子氏（小金井）、関東地方更生保護委員会委員長表彰の小美濃安弘氏（武蔵野）、中野美智子氏（三鷹）、中村扶佐子氏（武蔵野）、松田多恵子氏（武蔵野）、宮下みさ子氏（武蔵野）、吉田輝道氏（三鷹）、そして関東地方保護司連盟会長表彰の岡田英一氏（三鷹）、小山茂氏（小金井）、須崎英夫氏（国分寺）、真壁敦子氏（三鷹）。

皆様、おめでとうございます。
（総務部長 尾崎 幸信）

平成25年度 地域活動推進協議会

平成25年度地域活動推進協議会が9月19日（木）午後2時半より武蔵野芸能劇場小ホールで東京保護観察所立川支部長杉山多恵氏をはじめ北多摩東地区保護司会、更生保護女性会、BBS会、地域のPTA、主任児童委員、4市の事務局等更生保護に関わる多くの方々の参加を得て開かれました。会長及び支部長の挨拶に続き、社会福祉士、保護司の松友了氏による「障害者と犯罪について」の講演が開かれました。松友氏は東京都に福祉専門職として就職し、障害者運動に専従。平成25年より東京地方検察庁「社会復帰支援室」・社会福祉アドバイザー北多摩東地区保護司として尽力されています。障害のある人（障害者）と犯罪について、長らく障害福祉を専門とした立場から「障害者と犯罪をめぐる動き」「障害とは何か」「障害のある人への支援の実際」についてお話をして頂きました。障害者と犯罪については、障害のある人は、「地域の支援が必要であり特に知的障害者、認知症などは判断領域が低い為、



経済上、教育上の福祉としての介入とサポートが必要との事でした。障害のある人への支援では、「障害者として社会の中に出てくる時は、その人を支援し、犯罪行為をなくすためには本人へのさまざまなアプローチをすることが大事であり、その人の障害特性を評価して専門家につなぐ事になります」との講演を頂きました。終了後質疑応答の後、小山副会長の閉会の挨拶で散会となりました。多少難しい部分もありましたがたいへん参考になりました。ありがとうございました。

（地域活動部 高橋 豊）

秋の叙勲受章者
瑞宝双光章



保護司 鈴木 静子氏

平成25年11月3日付、秋の叙勲において、鈴木静子氏（小金井分区）が瑞宝双光章の栄に浴されました。鈴木氏は、昭和58年9月に保護司を拝命、平成20年11月に法務大臣表彰受章、30年にわたり多くのケースを担当する傍ら、副分区長としても活躍されました。衷心よりお祝い申し上げます。

東京都保護司会連合会 創立60周年記念
東京更生保護事業関係者顕彰式

平成25年度の東京更生保護事業関係者顕彰式典が11月26日中野サンプラザ大ホールで開催され、北多摩東地区保護司会の関係者23名が、更生保護事業の進展に寄与された功績を顕彰されました。

東京保護観察所長表彰

叙勲（秋）・瑞宝双光章

鈴木 静子（小金井）

法務大臣表彰

本木 治子（小金井）

全国保護司連盟理事長表彰

渡邊 昌子（小金井）

日本更生保護女性連盟会長表彰

石田 いく子（小金井）

関東地方

更生保護委員会委員長表彰

小美濃 安弘（武蔵野）

中野 美智子（三鷹）

中村 扶佐子（武蔵野）

松田 多恵子（武蔵野）

宮下 みさ子（武蔵野）

吉田 輝道（三鷹）

関東地方保護司連盟会長表彰

岡田 英一（三鷹）

小山 茂（小金井）

須崎 英夫（国分寺）

真壁 敦子（三鷹）

孤島 法夫（小金井）

高玉 泰子（三鷹）

立川 八重子（武蔵野）

信山 勝由（小金井）

望月 加奈子（武蔵野）

東京保護観察所長感謝状

〔家族功労者〕

田中 陽子（武蔵野）

更生保護女性会

鴨下 喜代（小金井）

高井 朝子（三鷹）

東京都保護司会連合会会長表彰

大澤 正男（小金井）

佐藤 美由紀（小金井）

松友 了（国分寺）

村雲 祐一（武蔵野）

和地 誠一（国分寺）

東京更生保護女性連盟会長表彰

庄司 恵子（武蔵野）

田中 久美子（国分寺）

第7ブロック
保護司組織運営
連絡協議会報告

今年度第7ブロックは北多摩東地区が当番です。当番地区として11月14日国分寺Lホールにて第7ブロック保護司組織運営連絡協議会を開催いたしました。

今年の議題は、全ブロック共通で「保護司の安定確保について」です。保護司候補者への役割説明について、また、保護司の安定確保、定着化に向けて組織支援のあり方など、各地区から意見書に基づいた報告がありました。

北多摩東地区からは武蔵野分区の伊藤紀子協議会委員が、安定確保に向けて地域のネットワークの活用が重要であり、様々な活動に取り組んでいることを発表されました。

後半の意見交換では、サポートセンターの重要性や定年の見直しについてなど、安定確保に向けて活発な意見が出され、終了後、懇親会が開かれました。

（国分寺分区 田中久美子）

武蔵野分区

重い歴史が

現在「博物館」として公開されている「網走監獄」を見て驚いた。現代の刑務所では当然の、五翼放射状舎房の原型が既にここにあったこと。

当時の政策で、囚人を駆使して道路開鑿が進められたこと。極寒の冬も、昼夜の区別なく、服1枚、素足は鎖で繋がれ、食物は不十分。工事を進める



に従い狭い小屋に移動し、寝る時は長い丸太に頭を並べた。囚人の多く、更には看守も犠牲になった。重い歴史がある。

(西尾 恵子)

三鷹分区

霧の摩周湖

網走刑務所を視察した後、摩周岳の噴火により誕生したカルデラ湖を訪ねました。世界有数の透明度を誇る神秘の湖。「霧の摩周湖」といわれるのは、湖面が霧に覆われることが多いからです。幸い私達は晴の日に恵まれ、憧れの摩周ブルーと称されるコバルト色の鮮やかな湖面をみる事ができました。それは言



葉を失うほどの美しさでした。今は「摩周湖の霧」を缶に詰めて、大切な人に夢とロマンを届ける事ができるそうです。

(三橋 優子)

北多摩東地区保護司会 管外研修 網走刑務所を訪ねて



小金井分区

先入観をなくす

今回の視察は2日目に行われ、今は博物館となつて公開されているかつての刑務所を見て、歴史的



な背景を聞いてからだだったこともあり、より深く現地を理解することができた。そして、何より現地を見ることの大事さを思ったのは、凶悪犯が入っていると思いでいた先入観をなくすことができたことだった。むしろ軽い刑に服している人たちの刑務所であり、どこも定員超過と思ひ込んでいたが、定員の7割程度しかいないという現状に少々意外な感じを持った。もちろん少ないのは歓迎すべきことである。思い込みが払しょくされ、視察の大事さを思った。分区を超えての懇親も和気あいあい、意味ある時間であった。

(五十嵐京子)

国分寺分区

想像と違っていた

2泊3日となると日程調整が難しく、今回初めての参加となりました。その中で、3日間北多摩東

の皆さんと行動を共にし、情報交換や懇親会を通じ、各分区の方々とよく知り合えたことが保護司3期目の私にとって1番のメリットでした。視察先は、現在の「網走刑務所」と網走刑務所の前身で、博物館として保存している「網走監獄」でしたが、その実際を見聞きし歴史と現状を知るにつれ、私が想像していた網走刑務所と違っていたことに驚かされました。

(峯岸 桂一)

青空の下での社会参加活動

師走に入った12月7日、久方ぶりに小金井が担当した社会参加活動でした。当日は心配した天気にも恵まれ、風もなく穏やかな一日。主任官、保護司11名、対象者3名、国分寺分区分から更女の方2名、BBS会から1名、総勢18名の参加を得て実施されました。

場所は小金井分区分保護司の渡邊氏が宮司をされている八重垣稲荷神社。鎮座10年を迎えた、清々しいこぢんまりとした神社の清掃活動です。まずは須崎会長、平田主任官を先頭に参拝。年配の保護司からは、若い対象者の方に二拝二拍手一拝の作法を教える微笑ましい場面もありました。その後、皆さん軍手を身につけ、箒、ビニール袋を手境内の清掃を開始しました。自然に対象者と担当の保護司が役割分担し、協力して作業を行うなどの光景も見られました。皆さん和気あいあいながら熱心に作業を行った結果、予定より少し早めに終了。この間一般参詣者も見えましたが、文字通りご苦労様ですとの一言がありました。

11時半には作業を終え、境内に設けられたテントの中での懇談と昼食会となりました。小山小金井分区分長の労いの挨拶をいただいた後、おにぎり、豚汁、煮物での昼食。更女の方の協力を得て、豚汁を何杯もお代りする方もいて、たちまちのうちに大鍋が空っぽになりました。

皆さんが気持ちを一つにし、有意義な社会参加活動の一日でした。

(小金井分区分 川畑 青史)



BBS活動 駿府学園視察を終えて

今回、北多摩東地区保護司会の方々に合同研修の誘いを頂き、北

多摩東BBS会から7名の会員が、静岡県駿府学園視察に参加させて頂きました。駿府学園は旧静岡少年院で、現在では初等・中等少年院の役割を担っています。短期処遇の少年院ということで、教育期間は5ヶ月くらいが標準だそうです。私たちはその中で少年たちの生活を見せて頂きましたが、生活指導はもちろんのこと、中学校程度の教育もきちんとなされており、資格取得の勉強もしている少年が多いそうです。

少年たちの生活の中で私が一番印象に残っているのは、職業指導であるお茶の栽培です。駿府学園で栽培されたお茶の葉を使ったお茶を頂きましたが、とても美味しく、静岡という地域の特長を存分に活かした活動だと感じました。

また、ある部屋に飾られていた短歌もとても印象的でした。一つ一つ紹介することはできませんが、どれも少年たちの気持ちが素直に表われている感じで、見ていると私自身泣きそうになるものばかりでした。

職員の方のお話の中で退院した少年でも、戻った先の環境によっては、また元の生活に戻ってしま

うことも多いのだそうです。お話を聞いているうちに、どうしたら彼らが復帰しやすい環境を作っていくのだろうと考えていました。たしかに世間一般の人々からすると少年院に入ったというだけでその人に対するイメージは悪いのかもしれませんが、でも実際に会ってみれば普通の子たちです。周囲の環境の影響の方がその個人の内因よりもよっぽど大きいのです。その環境が変わっていないのであれば、適応できないのは当然です。もっと社会にそのことを伝えたいと思います。

今回の研修を通して、1人のBBS会員として、また社会の一員として、今後更生保護の活動に真摯に取り組む、少年たちの立ち直りを支えていきたいと決意を新たにしました。

(BBS会会長
與那城 武尊)



ぶんくつ

武蔵野分区



日帰り研修について

平成25年12月12日、21名の参加で武蔵野分区日帰り研修が神奈川県療養少年院等で行われました。少年院は、相模原市の市街地に中学校が隣接し、緑の多いところに位置していました。処遇については、知的障害及び情緒的未成熟により社会的不適応が著しい12歳以上20歳未満の男子少年を収容し、必要な治療、教育を実施しているそうです。子ども達は木材を削り、漆を美しく塗装したり、陶芸に一生懸命取り組んでいました。昼食後、あきる野市の醤油工場近藤醸造さんを訪問しました。五日市街道に面した工場は規模は大きくないものの本格的な工場でした。



(高橋 豊)

ピツクス

国分寺分区



国分寺まつりでの社明運動

社明運動のひとつとして、11月4日に開催された国分寺まつりに社明推進委員会もブースを出店して、広報活動と刑務作業品の販売をしました。当日はあいにくの空模様で人も例年より少なかったようです。

広報活動はポ

ケットティッシュとパンフレットの配布です。ティッシュには社明運動のシンボル、ひまわりの種を



入れていきます。また、今年の刑務作業品は例年のスティック石鹸などに加えて北多摩東地区保護司会の管外研修の際に網走刑務所で購入してきたニボボをかたどった箸置きを販売しました。売りははじめのころ興味を持った少年がひとつ購入してくれたのが印象的でした。その後もなかなかの人気ですぐに売り切れになりました。他の品物もお昼すぎには完売となりました。

(和地 誠一)

小金井分区



茨城農芸学院を訪ねて

昨冬12月10日に茨城県牛久の茨城農芸学院を訪ねました。

この施設はかつて農場を幾つか持ち、農業技術の訓練が中心だったことからこの院の名前がついたそうです。

現在17名の院生がおり、特色ある院内生活を送っていますが、その一つに毎年6月に開かれる相撲大会があります。そしてこの大会を53年にわたって支援してきたのが、横綱白鵬を擁する大相撲「宮城野部屋」です。

毎年大会に合わせて宮城野親方が、部屋の若い力士や行司を伴って来院し院生を指導します。

相撲は「礼に始まって礼に終わる」ものです。彼らは相撲を通じて基礎体力の養成と礼節を学ぶことが

とができるのです。彼らが心身ともに健全な社会人に育っていくことを期待しながら院を後にしました。



(志波 直男)

三鷹分区



立川拘置所を見学

12月11日、三鷹分区日帰り研修に初めて参加し立川拘置所を見学してきました。立川拘置所は平成21年に開所した都市型拘置所です。外堀はなく外観は拘置所と思えないほどきれいな建物でした。最初に会議室で所内の方から拘置所の役割、施設内等の説明を聞き、その後施設内の見学をしました。ドアは静脈認証で最新の警備システムが導入されており、エレベーター内は収容者と看守が別々の空間になるよう透明の扉で仕切ることができるようになっています。居室、運動場等を見学しましたが、通路にはステンドグラスや絵画等が飾られており、今まで持っていた拘置所のイメージが変わりました。建物周囲は緑地を設け、一部は公園として開放し、環境にも配慮された施設だと感じました。



(吉野 武)

平成25年度
第Ⅱ期地域別定例研修

報告書の作成

10月21日に国分寺市ひかりプラザ、10月25日には三鷹連雀コミュニティセンターで実施されました。須崎英夫会長は挨拶の中で「地域別定例研修は保護司にとってある意味で義務的な大事な研修」と強調されました。

平田和英主任官の講義では、保護観察経過報告書の持つ意味や報告書作成時の留意点についての話があり、その中で文章の主語を明確にすること、事実認識や印象認識の主語は誰なのか、すなわち情報源を明確にし客観的に書くことの必要性が述べられました。

更に、資料に基づいて保護観察事件調査票の見方やそこに使われている文言についての説明がありました。日頃、何気なく読んでいた書類も色々な観点を踏まえて表現されているのだと気付かされました。

年3回の地域別定例研修はその都度、北多摩東地区内の2会場と2回の補講（本庁と支部）があり、各回の研修に4回の出席チャンスが用意されています。また、

主任官や他市の保護司達と知り合いになり、交流も生まれる機会となります。

今回の北多摩東地区全体の出席率は70%弱でした。多摩地域の中では出席率が一番低い方です。

とはいえ、仕事を持っていない人にとっては平日に出られないこともあるのかと思います。

しかし、究極のボランティアと言われる保護司を受けている立場に誇りを持って、一緒に歩んで行けたら心強い限りです。

（研修部長 孤島 法夫）

北多摩東更生保護女性会講演会

坂田 米子

12月12日午後1時30分から、国分寺市ひかりプラザにおいて、北多摩東更生保護女性会講演会が開催されました。

講師には、東京保護観察所立川支部支部長の杉山多恵氏をお迎えし、「更生保護女性会への期待——更生保護ボランティアとしての役割と活動の充実について——」を演題として講演をいただきました。

「更生保護とは」にはじまり、「更生保護を支える人々」、「更生

保護女性会の歩み」で背景を話され、基本的な理解が深まったうえで、「今日の更生保護の課題」に触れられ、テーマである「更生保護女性会の役割と活動の充実」と結びれていきました。

私は本講演のキーワードを「發揮しよう地域DJ更女の底力」と捉えました。①「住んでいる地域」で取り組むべき更生保護の課題を設定する。②地域の人たちの心をつかむ言葉で情報提供し、理解・協力を得る。③活動は会員が関係する多様な機関や人と共に進める。

杉山多恵氏の講演を拝聴し、今一度「更生保護」の原点に立ち返って考えるよい機会になったと思います。その結果、日頃の更生保護女性会の活動に改めて自信を持ち、活動をさらに前進させる活力を得た会員も多かったのではないのでしょうか。



桐友会だより



世話人代表
山代 法道

東京桐友会の活動

平成25年4月25日、第1回理事会を開催。

9月11日、第32回「東京桐友会会員の集い」を開催。

10月30日、「地区桐友会代表者協議会」を開催。また、各地区会の情報交換では、会員数が少なく地区活動が困難との報告がありました。

平成26年2月20日、第2回理事会を開催。

北多摩東桐友会の活動

本年度は、総会等、保護司会が実施する行事への参加の他、武蔵野分区保護司研修会への参加や会員のための懇親会を開催、保護司会への協力のあり方等が話し合われました。

新入会員 三 鷹 酒井 浩治氏
退会会員 小金井 塚本 哲也氏
計 報 国分寺 榎戸 潔氏

多摩地区保護司会研修会

薬物をやめる＝使わない事の継続

2月26日、保護観察所立川支部において、「薬物使用の現状と立ち直り支援」と題した研修会が行われ、約百五十名の保護司が参加しました。森久保会長、杉山保護観察所立川支部長の挨拶に続き、薬物依存症の人たちが、集団生活を通じリハビリを行い、社会復帰を目指す「東京ダルク八王子ハウス」の加藤隆施設長より、薬物使用の現状についての講演がありました。

ご本人も、15歳から30歳まで薬物に依存していましたが、現在は立ち直り、経験を生かした中で、社会復帰の支援を行っています。薬物使用のきっかけは、いじめから解放されるため、いじめグループに入ることから始まり、たばこ・シンナー・覚せい剤の使用まで、十数年に亘る壮絶な過去を振り返っていただきました。薬物使用中は物事の善悪がつかなくなり、使用を止めるより薬



代をどうするかを考える毎日が続き、薬代調達のため、犯罪に手を染めることもあったそうです。その間、親や婚約者、友達からも見放され、辿りついたところが「ダルク」でした。

薬物の使用中は精神状態が変わり、いわゆる良い子でいることが出来ませんが、心の成長は止まったまま、自分の未来等は考えられない状況にあり、リハビリでやり直す必要性があります。また、薬物依存の多くは薬物のやめ方が分からないまま昔の記憶がよみがえり、再度使用してしまいうようです。

薬物依存者と目線を同じくし、話すことにより心を開かせ、薬物を使用しなくとも安心できる環境づくりが必要です。薬物をやめるということは、使わないことの継続に他ならないとのことでした。

休憩をはさみ都立多摩総合精神保健福祉センター相談係長の谷合知子氏より薬物使用に関する相談状況の報告がありました。東京都には三か所の精神福祉センターがあり、年間一万件の相談が寄せられています。特に最近薬物に関する相談が多く寄せられ、各種プログラムにより解決策をアドバイス

スしています。各種依存症は脳の病気であり、勇気を持って相談してほしいとのことでした。

(小金井分区分 小川 和男)

退任保護司

左記の方々が退任されました。永い間お疲れ様でした。

川西 総一郎氏 (武蔵野分区分)

平成26年2月1日 在職14年

岡田 一夫氏 (三鷹分区分)

平成25年9月16日 在職12年

渡邊 昌子氏 (小金井分区分)

平成26年1月31日 在職20年

和地 明男氏 (国分寺分区分)

平成26年1月31日 在職40年

新任保護司

左記の方々が委嘱されました。今後のご活躍を期待致します。

(国分寺分区分)

小泉 利康氏

平成25年9月17日発令



(国分寺分区分)

林 博行氏

平成25年9月17日発令



(国分寺分区分)

井澤 邦夫氏

平成26年2月1日発令



(国分寺分区分)

石井 一也氏

平成26年2月1日発令



(小金井分区分)

藤尾 忠洋氏

平成25年9月17日発令



編集後記

立春も過ぎましたが、記録的な大雪となりました。インフルエンザ、ノロウイルスも流行し、自身の健康にも留意しながら保護司活動に励んでいかなければと思う今日この頃です。

ご多忙の中、皆様から原稿と写真をいただき、119号を発行することが出来ました。ありがとうございました。

(武蔵野分区分 大久保良子)

